



かたはSP学生Office

教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

かたはSP通信

と
ひ
と
学
生
の
ツ
ム
ぐ

第64号

2017年8月27日

編集 竹内稔博

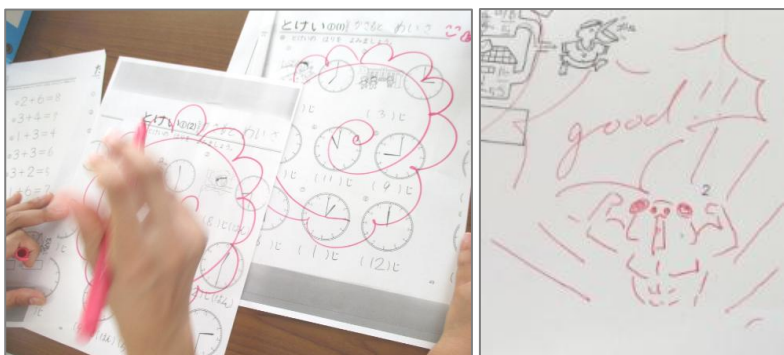
(東浦中学校主幹教諭)

夏休みわくわく算数・数学教室特集号 No.43

～そうだ、夏は、東浦へ行こう！ 東浦の子どもたちのために、
そしてSPさん自身の教師力向上のために～

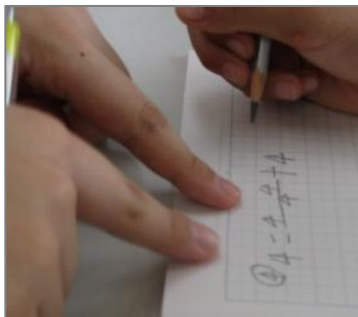
指導方法あれこれ

わくわく算数に来てくれるSPさんは、皆、本当に誠実に熱心に取り組んでくれます。「子どもが分かるように」、「子どもの意欲が高められるように」ということを、全力で考えてくれています。



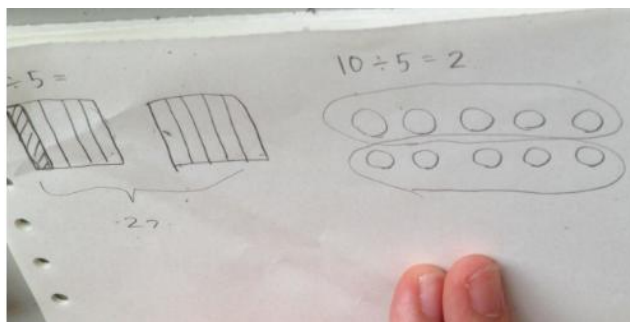
プリントをさせて丸付けをします。そのときにこんな大きな「花丸」を付けてくれます。子どもたちはうれしに決まっています。また、単にgoodと書くのではなく、イラストを描いたり、ちょっとユーモアを入れて朱書き・コメントしたりしてくれています。これで、子どものやる気に火がつけます。

これらのことがずっとできる、考えてできる、ここにSPさんの質の高さがうかがえます。



計算をさせています。見る視点を与えるために、SPさんが両手の人差し指で、見る場所を示します。そして口で説明します。「この4とこの4があるから…」子どもは気付きます。子どもは、言われたことは気が無ければ忘れますが、自分で気付いたことは忘れません。そのこともSPさんは知っているからこそ「気付かせる」ための指導をしています。

算数の問題は数字で書かれています。量感を感じさせるために、図を書いて示します。10個を5つつ分けるんだよね、じゃあ…。書きながら気付かせます。量感をつかめば、あとは計算するのみです。式の考え方に気付かせてくれています。



SPさんたちの「工夫」は、レベルがとても高いです。多くのSPさんが「教える」ことの尊さを、このわくわく算数で実感してくれています。